

【施策2 希望を持って子どもを産み育てられるまちづくり 外部評価結果】

		外部評価	内部評価
達成度	目標値設定	3	3
	目標値達成率	3	3
重要度	政策目標への役割	4	4
	市民意向	4	4
有効性	実施成果の度合	3	4
合計		17	18
		A	A
方向性		拡充	拡充

※赤字の評価は内部評価と異なる結果になったものを示す。

外部評価委員からの主な指摘事項	現在の取組状況
<ul style="list-style-type: none"> • 施設整備に偏っているイメージがある • 市民ニーズを汲んだ事業展開、成果指標の設定 目標設定が必要である 例えば、目標値を保育所入所定員数とするのであれば、保育所への入所希望をしてから入所までにどれだけの時間が要したのかなどを分析し、それを改善していけば満足度も向上するのではないかと • この施策の範囲は出産から子育てまでと広い • 一方で、施策に入っているべき事業が他の施策に位置づけられている • また、妊婦検診と不妊治療はあるが、乳幼児に関する施策は入っていないなど、施策の内容について検討が必要であると考えられる • 基本政策の方向性と施策との関わりや施策の位置付けについて担当課がどのように認識しているのか • 大津市に住めば安心して子育てができることをPRする取り組みがあればよい • 施策の方向性を明確にすることにより、さらに有効な施策の展開が可能となるのではないかと 	<p>今年度は第2期実行計画の最終年度ということもあり、成果指標及び目標の設定について変更を行っておりませんが、現在実施しております市長をリーダーとする「大津市子育て支援スマイルプロジェクト」において各種の課題の検討、整理を行っており、来年度からの第3期実行計画の策定に向けた施策体系等の見直しを行うにあたって、ご指摘の点もふまえ、改善を図っていきたいと考えております。</p>

【施策5 災害に強いまちづくり 外部評価結果】

		外部評 価	内部 評価
達成度	目標値設定	2	3
	目標値達成率	2	2
重要度	政策目標への役割	4	4
	市民意向	4	4
有効性	実施成果の度合	3	4
合計		15	17
		B	A
方向性		拡充	現状 維持

※赤字の評価は内部評価と異なる結果になったものを示す。

外部評価委員からの主な指摘事項	現在の取組状況
<ul style="list-style-type: none"> • 成果指標はまちづくりの指標ではなく、耐震化の指標に限定されている • 自主防災組織や防災訓練などソフト対策についての成果指標も設定し、施策に取り組むべきである • ハード対策は一定出来ているが、一方でソフト対策やその評価が出来ていない • ソフト対策についての成果指標の取り方についても検討いただきたい • 成果指標の候補としては、自主防災組織に関するもの、防災訓練に関するものなどもいれてもらいたい • 上記の取り組みを実現しなければ本当に災害に強いまちづくりにはならない • ハード対策についても、まちが災害に強いことが分かる指標が必要である • この施策に限らず、内部評価の「方向性」の意味について、整理する必要がある 	<p>これまで、施策配下の事務事業の中で、学区自主防災組織の設置数や防災訓練の参加者数、自主防災組織に対する訓練指導などソフト対策についての成果指標を設定し、取り組みを進めております。</p> <p>また、今年度から新たなソフト対策として、地域の防災リーダー（防災士）を養成するための事業に着手しているところです。</p> <p>そういったことから、総合計画第3期実行計画の施策において、ソフト対策についての成果指標の設定を検討してまいります。</p>

【施策15 生活の安心を支えるまちづくり 外部評価結果】

		外部 評価	内部 評価
達成度	目標値設定	3	3
	目標値達成率	3	3
重要度	政策目標への役割	4	4
	市民意向	4	4
有効性	実施成果の度合	3	3
合計		17	17
		A	A
方向性		現状 維持	現状 維持

外部評価委員からの主な指摘事項	現在の取組状況
<ul style="list-style-type: none"> 後期高齢者医療制度や国民健康保険制度等については、市に裁量がほとんどないため、方針に基づき適切に事務が執行されているか否かという点で判断をせざるを得ない 国民健康保険、国民年金の運用実績や健全性、大津市としての取組状況等を市民に情報提供することが重要である 自立支援については、支援を受けた人が自立できたか否かについて分かるものを指標とした方が良い 自立支援を受けた人数を指標とするのではなく、支援を受けた人がその支援についてどの程度満足したのかを指標とすることが望ましい 財政面からいかに歳出が減ったのかということも重要な成果指標である 	<p>(2番目から)</p> <ul style="list-style-type: none"> 国民健康保険の運用実績、財政状況等につきましては、市ホームページ上で国民健康保険運営協議会で提出している資料およびその会議録を公表しています。また国民年金につきましては、国が運営している制度でございますので、厚生労働省のホームページ上で公表されています。 自立支援プログラムは、就労支援など経済的な自立を目指すものから、次世代にむけた中三学習会など多岐にわたっています。現指標はそれぞれの目標の達成者数の合計数を表記しています。指標名中の支援者数を達成者数に修正します。 満足度については、プログラムが多岐にわたることから判定基準が難しいと考えられます。 削減効果については、重点事業調書では「成果額」として指標の一つに取り入れています。項目数の制限のため入れることができません。

【施策23 団塊世代が活躍するまちづくり 外部評価結果】

		外部 評価	内部 評価
達成度	目標値設定	2	4
	目標値達成率	4	4
重要度	政策目標への役割	4	4
	市民意向	3	3
有効性	実施成果の度合	3	3
合計		16	18
		A	A
方向性		現状 維持	現状 維持

※赤字の評価は内部評価と異なる結果になったものを示す。

主な議論	現在の取組状況
<ul style="list-style-type: none"> 現在の成果指標では、その内容に明確さが欠けており、適切な指標について議論が必要である 団塊の世代のグループをいかにつくるかということが目標となっている しかし、団塊の世代が活躍するための裾野を広げようとするのであれば、いかに多くの人に活動へ参加していただくかが重要である 団塊の世代が活躍するイメージを具体的に明らかにしながら、施策の方向を考える必要がある 	<p>成果指標を講座の開催数や受講者数に改め、団塊世代を中心に、多くの参加者が当事業を通じて様々な市民活動を体感いただけるように、事業の広報活動に力を入れております。</p> <p>まちづくりや地域活性化の担い手となる人材の発掘や育成に繋がるように、参加者へのアンケート等の活用するなど、随時、事業手法の改善や見直し等を検討しております。</p>

【施策27 農林水産業をはぐくむまちづくり 外部評価結果】

		外部 評価	内部 評価
達成度	目標値設定	3	3
	目標値達成率	2	2
重要度	政策目標への役割	4	4
	市民意向	3	3
有効性	実施成果の度合	3	3
合計		15	15
		B	B
方向性		現状 維持	拡充

※赤字の評価は内部評価と異なる結果になったものを示す。

外部評価委員からの主な指摘事項	現在の取組状況
<ul style="list-style-type: none"> • 施策はまちづくりに関することだが、実施内容は1次産業振興だけである • この施策の取組で述べる1次産業の活性化とまちづくりと直接つながっていない • 評価対象事業を見ると遊休農地対策事業の予算が大きい、成果指標はそれと関係のない指標が設定されている • 施策目標と事業内容との関係をしっかりと考えてもらいたい • 直売所販売額の目標値は、今後も横ばいで推移する見込であるとの説明であった • 目標値の上昇が見込まれないならば、そのような指標はふさわしくない • 生産者の数と遊休農地に関する指標が設定されればよい • 地産地消の事業としては「拡充」の方向かもしれないが、まちづくりという施策全体としてみた場合は、本施策の方向性は「拡充」とは認められない 	<p>当該施策目標の達成のためには、1次産業の振興が有効と考えており、他の施策とあわせて総合的なまちづくりを行っていきたいと考えております。</p> <p>成果指標等については、施策目標達成への度合いを的確に数値で表せるものを設定していきたいと考えております。</p>

【施策29 古都にふさわしい景観を大切にすまちづくり 外部評価結果】

		外部 評価	内部 評価
達成度	目標値設定	2	4
	目標値達成率	4	4
重要度	政策目標への役割	4	4
	市民意向	3	4
有効性	実施成果の度合	3	3
合計		16	19
		A	A
方向性		現状 維持	現状 維持

※赤字の評価は内部評価と異なる結果になったものを示す。

外部評価委員の主な指摘事項	現在の取組状況
<ul style="list-style-type: none"> • 成果が現れるには時間が必要なのは理解するが、現在の総合計画が策定されて既に4年以上が経過しているため、施策の成果がある程度見える必要がある • 屋外広告はない方が古都としてふさわしいまちという見方もある • 屋外広告物の許可物件数だけで成果指標とするのは良くないのではないか • 基本政策と施策の関係性が明確でなく、基本政策で掲げる「新しい感性」という言葉の意味について、十分に理解が図られているのか • 「古都」について、大津市として古都指定をどのようにとらえ、これから大津市の景観をどのように誘導したいのか共有できていないのではないか • この施策に限ったことではないが、データがとりやすい指標ではなく、まちづくりという視点から施策にふさわしい指標を設定し、目標実現に向けて施策を実施することが必要である • 適切な目標を設定しなければ効果的な施策を実行していくことが出来ないという点で、この施策の目標設定は適切ではない 	<p>成果指標につきましては、より施策の成果が見えるような指標とするよう、第3期実行計画の策定に向けて、検討中です。</p>

【施策36 勤労者が充実感を持って働けるまちづくり 外部評価結果】

		外部 評価	内部 評価
達成度	目標値設定	2	3
	目標値達成率	3	3
重要度	政策目標への役割	4	4
	市民意向	3	3
有効性	実施成果の度合	3	3
合計		15	16
		B	A
方向性		現状 維持	拡充

※赤字の評価は内部評価と異なる結果になったものを示す。

外部評価委員からの主な意見	現在の取組状況
<ul style="list-style-type: none"> • 勤労者福祉センターの利用者や職業相談件数が増えれば施策目標が達成できるのかに疑問である • 目標や成果指標の設定について工夫が必要である • 現在は職業相談件数等が指標として挙げられているが、「勤労者が充実感を持って働けるまちづくり」と一致する指標が1つでも必要である • 学生は、大津市の中小企業にはどのような企業があり、どのような人材を求めているのかを知りたいと思っているようである • しかし、どのようにしてそのような情報を入手すればよいか知らない学生が多いような印象を受ける • 施策と施策を構成する事業の関係があいまいである • 市民のニーズと大津市の取り組みや事業が必ずしもマッチしていない印象である • 「充実感を持って働ける」「希望する働き方」などの文言があるが、いずれも具体的に何を意味しているのか良く分からない • 地域のニーズをつかみ大津市として市民のためにできることを検討してもらいたい • 雇用関係の施策は必要かつ重要であるが、今後の方向性がハローワークとの連携程度であれば現状維持である • 拡充とするならば、事業内容についてさらに検討する必要がある 	<p>雇用情勢が依然厳しい状況の中、移動労働相談を開催し、就職相談におきましては、求職者ニーズに応じた求人情報の提供を行い、必要に応じてスキルアップのための職業訓練の紹介などもしながら早期就職への支援を行っております。</p> <p>また、労働相談では、パワーハラスメントや賃金未払いなどの相談が多く、滋賀労働局などの国の機関と連携を図るなどして、その支援を行っております。</p> <p>学生の就職支援については、学生就職面接会を開催し、事業所がどのような人材を求めているのかなど、学生が直接事業所から説明を受ける機会を多く提供するために、参加事業所を増やしました。</p> <p>また、学生への周知についてもヤングジョブセンターや環びわ湖大学・地域コンソーシアム等の協力を得、広く周知することに努めました。</p> <p>総合計画第3期実行計画では、父親が子育てに参加しやすくなる働き方や育児休暇を取得しやすい職場環境づくりの実現に向けた新たな取り組みを行い、「ワーク・ライフ・バランス」の推進を図って参ります。この新たな取組みについての指標の設定を検討しております。</p>

【施策39 地域交通網が整ったまちづくり 外部評価結果】

		外部 評価	内部 評価
達成度	目標値設定	1	4
	目標値達成率	3	4
重要度	政策目標への役割	3	4
	市民意向	3	4
有効性	実施成果の度合	3	4
合計		13	20
		B	A
方向性		見直し	拡充

※赤字の評価は内部評価と異なる結果になったものを示す。

外部評価委員からの主な指摘事項	現在の取組状況
<p>①全体的に地域交通網が整ったまちづくりを認識するための情報が足りず、施策が十分に機能しているのか否かが判断できない</p> <p>②-(1) JRと京阪の利用者を増やすことが施策の目的ではなく、目標設定が不適切である</p> <p>②-(2) バス路線の維持も施策では重要な内容であるにもかかわらず適切な目標設定ができていない</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 施策の目標が達成できているのか不明である <p>③バス利用者数集計に時間が要するため指標として使用しないということであるが、その値が分からなければ、民間バス事業者にどのように補助を行っていくのか方向性を出すことが難しいのではないか</p> <p>④施設整備が完了していないので市民満足度は良くないという分析があったが、施設整備だけで満足度が向上するものではない</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 公共輸送対策事業を最優先ということであるが、自転車駐輪場管理運営事業の予算が多くなっている <p>⑤-(1) 高齢者等の交通弱者のニーズをどのようにくみ取るか、どの属性に対してどのように対応をしていくのか、など個別具体的な分析や方向性が明確になっていない</p> <p>⑤-(2) 施策の目標を達成するために必要な事業を検討するなど、施策の内容を見直す必要がある</p>	<p>①今年度実施した評価においては、課題の再確認を行い、施策の実施による望ましい姿を明らかにしたうえで自己評価を行うこととしました。</p> <p>②交通機関の乗降客数については、重点事業の実施後の成果を把握するために、引き続き、指標として活用していることに加え、現在はバス路線数も参考指標として自己評価に活用しております。</p> <p>③バスの乗降客数を指標として扱えるよう、集計時期を早めて、今年度の評価では成果指標として活用するよう改めました。</p> <p>④自転車駐輪場や駅前広場などの駅周辺施設は、地域と公共交通をつなぐ機能として、重要な要素を担っていることには変わりないため、引き続き、施策を構成する事業として加重割合を適正化しながら評価に活用しております。</p> <p>⑤公共輸送対策に重点をおく基本方針は変わりありません。昨年度より、事業者からの減便や廃止意向が示されている路線バスがあることを契機に、課題のある地域を単位として、地域の持つ特性（地理的条件や年齢分布、高齢化率等）を踏まえた、現状把握と分析、具体的対策の検討をすることといたしました。このことを踏まえた上で、課題を抱える地域ごとに必要な取組みを再構築して、次期計画期間における施策の方向性、事業内容の構築を図ります。→第3期実行計画には反映していく見込みです。</p>

【施策45 琵琶湖を大切にすまちづくり】

		外部 評価	内部 評価
達成度	目標値設定	3	4
	目標値達成率	4	4
重要度	政策目標への役割	4	4
	市民意向	4	4
有効性	実施成果の度合	3	3
合計		18	19
		A	A
方向性		現状 維持	現状 維持

※赤字の評価は内部評価と異なる結果になったものを示す。

外部評価委員からの主な指摘事項	現在の取組状況
<ul style="list-style-type: none"> 「琵琶湖を大切にすまちづくり」にふさわしい事業の実施や成果指標の設定について検討が必要である 現在の成果指標は既に一定の水準に達しており、今後工夫が必要である 環境保全活動参加者の人数だけでは成果指標としては不十分であり、琵琶湖の水質の水質汚濁等のデータ、企業が活動に参加している度合いを測ることが必要である 環境政策課だけではなく、庁内組織の横断的な取り組みが求められる 	<ul style="list-style-type: none"> 施策に係る事業全体の参加人数や活動実施回数なども成果指標等として検討しております。 この施策に係る事業は、市民や市民団体などの琵琶湖に関する環境保全活動を中心にしたもので、水質関係は別途、水環境保全や環境監視などの事業で、別の施策で実施しております。 企業の環境保全活動参加の度合は、数字として全部が把握できるように集計、まとめをしていく予定です。

【施策49 緑の中で豊かに暮らすまちづくり 外部評価結果】

		外部 評価	内部 評価
達成度	目標値設定	—	3
	目標値達成率	—	4
重要度	政策目標への役割	—	4
	市民意向	—	4
有効性	実施成果の度合	—	4
合計		—	19
		—	A
方向性		—	現状 維持

※赤字の評価は内部評価と異なる結果になったものを示す。

外部評価委員からの主な意見	現在の取組状況
<ul style="list-style-type: none"> • 施策に対する評価対象事業が無いため評価できない • 評価できないのは主管課の問題ではなく、施策と構成する事務事業についての問題であることから制度全体の問題として検討することが望ましい • 施策内容について同様の取り組みの施策（施策48～50）があり、今後、整理・統合を検討した方がよい • 成果指標が市民活動やイベントの参加者等であれば一定の評価が出来るが、現在の評価指標では評価が出来ない 	<p>ご指摘いただきましたとおり、第3期実行計画策定において、当施策と、施策48「豊かな水や緑に触れるまちづくり」、施策50「憩いの空間あふれるまちづくり」を整理・統合し、「水や緑を生かした憩いの空間あふれるまちづくり」に1本化いたします。</p>

【施策52 資源を有効に利用するまちづくり 外部評価結果】

		外部 評価	内部 評価
達成度	目標値設定	3	4
	目標値達成率	2	2
重要度	政策目標への役割	4	4
	市民意向	4	4
有効性	実施成果の度合	4	4
合計		17	18
		A	A
方向性		拡充	拡充

※赤字の評価は内部評価と異なる結果になったものを示す。

外部評価委員からの主な指摘事項	現在の取組状況
<ul style="list-style-type: none"> 資源の有効利用に加えて、ごみ減量が大きな議題となっている 施策・事業の内容から資源の有効利用に加えて、ごみの減量に関する成果指標を設定してもらいたい 資源化率を高めるのか、行政効率（費用削減）を高めるのか今後の方向性については議論が必要である 	<ul style="list-style-type: none"> 資源の有効利用のためには、ごみ減量施策が重要であり、一般廃棄物（ごみ）処理基本計画に基づき、ごみ減量施策を推進しております。 施策の名称から資源の有効利用を指標としていますが、別途ごみ減量の目標も設定しているので、施策の見直しとともに指摘に基づき検討をしております。 大きな課題として認識しております。

【施策54 環境教育の充実したまちづくり 外部評価結果】

		外部 評価	内部 評価
達成度	目標値設定	3	3
	目標値達成率	4	4
重要度	政策目標への役割	4	4
	市民意向	3	4
有効性	実施成果の度合	3	3
合計		17	18
		A	A
方向性		見直し	拡充

※赤字の評価は内部評価と異なる結果になったものを示す。

外部評価委員からの主な指摘事項	現在の取組状況
<ul style="list-style-type: none"> • 環境に関するリーダー的存在を育成するのか、多くの人に意識醸成を図るのか議論が必要である • 子どもだけではなく、大人に対する取り組みも必要であり、工夫が求められる • 琵琶湖をよくする、ごみを拾うということよりも自然体験を実施することを前面に出した上で「環境教育の充実」につなげていく必要がある • 環境教育プログラム数だけでは評価できない • 参加人数や大人・子どもの内訳などのデータがほしい • 各種団体や庁内部局との連携を促進することが必要である • 施策名称について、「環境教育」なのか「環境学習」なのか改めて議論が必要である 	<ul style="list-style-type: none"> • 多くの人に意識醸成を諮ることを中心としつつ、リーダーや指導者を育成して広げることも進めております。 • 親子・家族を対象とした事業も3重点事業の1つとして実施しております。 • 環境人を育む基本方針に基づき自然体験型環境学習として様々なフィールドや内容で実施しております。 • 平成24年度の実績取りまとめから参加人数とその大人・子どもの内訳なども集計していきます。 • 分野ごとの各種団体との協力を可能な範囲で進めており、庁内でも環境学習実施所属との推進会議を開催しております。 • 市民や市民団体が主体的に体験学習をするという観点から環境学習で統一していきたいと考えております。

【施策57 効率的で開かれた行政運営 外部評価結果】

		外部 評価	内部 評価
達成度	目標値設定	3	3
	目標値達成率	3	3
重要度	政策目標への役割	4	4
	市民意向	2	2
有効性	実施成果の度合	3	3
合計		15	15
		B	B
方向性		現状 維持	拡充

※赤字の評価は内部評価と異なる結果になったものを示す。

外部評価委員からの主な意見	現在の取組状況
<ul style="list-style-type: none"> • 施策の取り組みを広く市民に知らせるために広報に力を入れるということだけでは、施策全体を「拡充」とするには不十分だ • 構成事業が多いのは仕方がないが、施策目標と関係のないと思われる事務事業が関係している • この施策指標は天津市の行政全体の評価と「効率的で開かれた行政運営」という施策の二重評価になっている • そもそも施策として評価することがふさわしいのかどうか疑問である • 施策として何が重要課題であり、何を拡充しているのかを明確にする必要がある • 行政側の視点である「効率的」という内容と市民側の視点である「開かれた」という内容を1つにまとめて施策として評価することは難しい 	<ul style="list-style-type: none"> • 平成24年度に行政改革プロジェクトチームを立ち上げ、さらなる効率的・効果的な行政運営を目指し取り組んでおります。 • 現在、第3期実行計画の策定に向けて、施策と事務事業の関連性の見直しを進めております。また、成果指標につきましても、施策の象徴となる指標となるよう見直します。 • 少子高齢化が急速に進展することによる行政需要の拡大、施設の老朽化に伴う改修や更新等に多額の財政負担が見込まれるなど厳しい財政状況の中、限られた経営資源をいかに効率的・効果的に配分するかが重要な課題であり、行財政基盤を強化するために徹底した行財政改革に取り組めます。